

# 2022年3月期 上半期連結業績概要

専務執行役員  
山西 哲司

# 2022年3月期 上半期決算のポイント

コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進み、エレクトロニクス需要の回復基調が継続。DX、EX関連需要が堅調に推移し、売上高・営業利益とも過去最高を更新。

- 売上高は前年同期比29.4%増、営業利益は前年同期比28.2%増
- 第2四半期及び上半期の売上高、営業利益は過去最高を更新\*

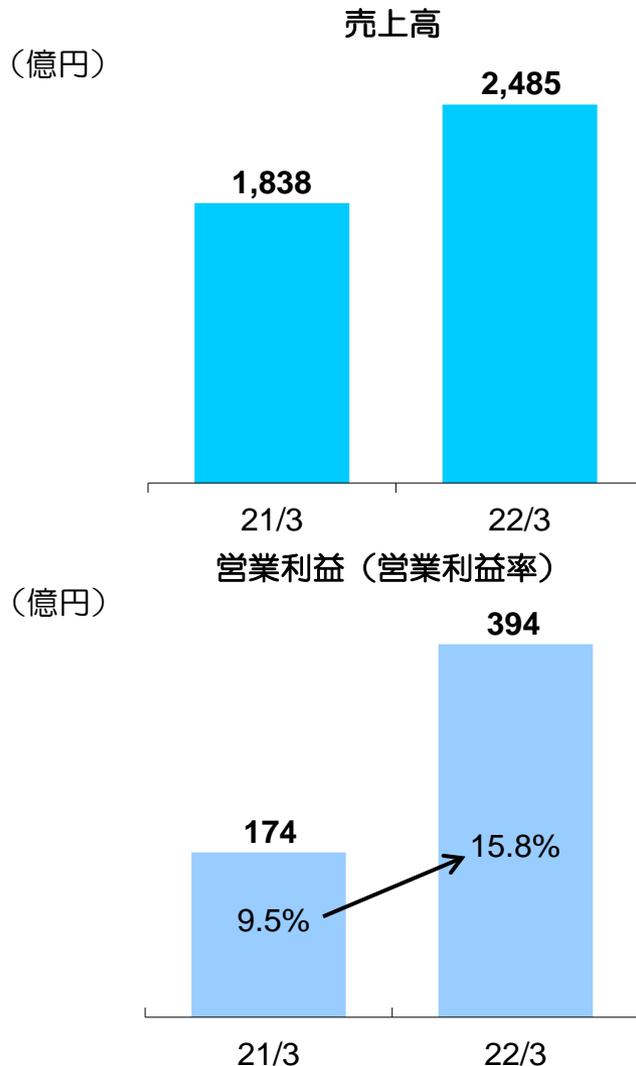
- 自動車生産は半導体や部材の供給不足の影響を受けたものの、部品搭載点数の増加の傾向もあり、自動車市場向けの販売は堅調に推移。受動部品、センサの販売が拡大。
- ICT市場では、スマートフォンの生産が半導体供給不足や新型コロナ感染症再拡大の影響で期初想定を下回るも、PC、タブレットの需要は引き続き堅調に推移。また、データセンター向けの投資が好調に推移し、サーバー需要が拡大。二次電池、センサ、HDDヘッドの販売が拡大。
- 設備投資も高水準で推移し、産業機器用電源、受動部品の販売が拡大。

\*営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

# 2022年3月期 上半期連結業績概要

(億円)	2021年3月期 第2四半期累計実績 (2020.4.1~2020.9.30)	2022年3月期 第2四半期累計実績 (2021.4.1~2021.9.30)	前年同期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	6,911	8,942	2,031	29.4
営業利益	624	800	176	28.2
営業利益率	9.0%	9.0%	-	-
税引前利益	632	845	213	33.7
当期純利益	422	682	260	61.6
1株当たり利益 (円)	111.42	180.03	-	-
為替	対ドルレート (円)	106.92	109.79	2.7%の円安
	対ユーロレート (円)	121.27	130.86	7.9%の円安
為替変動による 影響金額	売上高：約454億円の増収 営業利益：約18億円の減益			

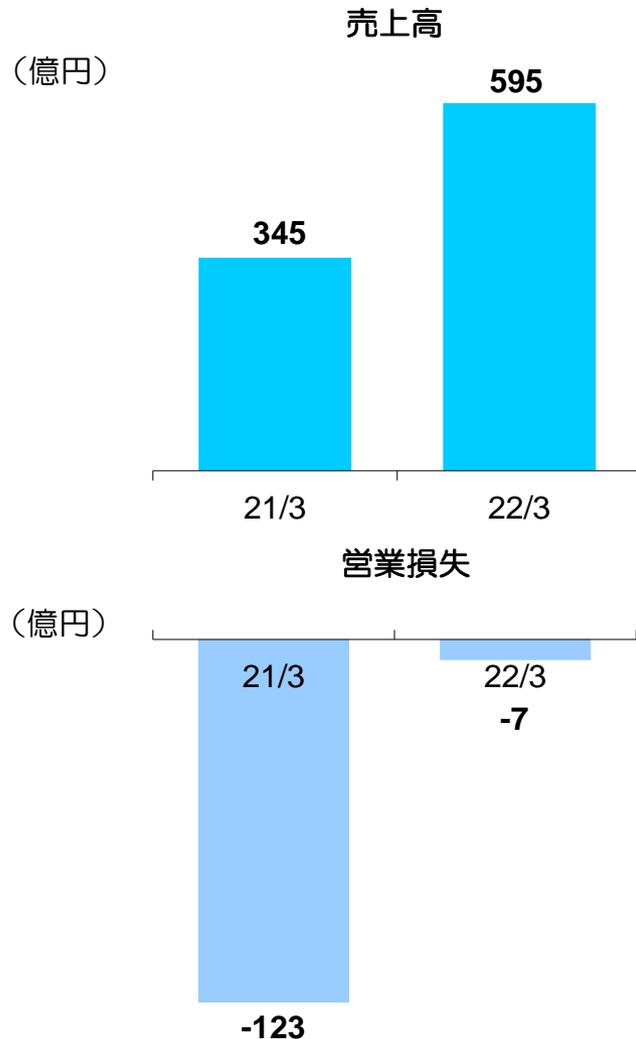
# 上半期各事業の状況（受動部品事業）



売上高 2,485億円（前年同期比35.2%増）  
営業利益 394億円（前年同期比126.4%増）

- セラミックコンデンサ
  - ↳ 前年同期比で増収増益。
  - ↳ 自動車市場向け販売が大幅に増加。
- アルミ・フィルムコンデンサ
  - ↳ 前年同期比で増収増益。
  - ↳ 産業機器市場及び自動車市場向けの販売が増加。
- インダクティブデバイス
  - ↳ 前年同期比で増収増益。
  - ↳ 自動車市場向けを中心に販売が大幅に増加。
- 高周波部品
  - ↳ 前年同期比で増収減益。
  - ↳ ICT市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
  - ↳ 前年同期比で増収増益。
  - ↳ 産業機器市場及び自動車市場向けを中心に販売が増加。

# 上半期各事業の状況（センサ応用製品事業）

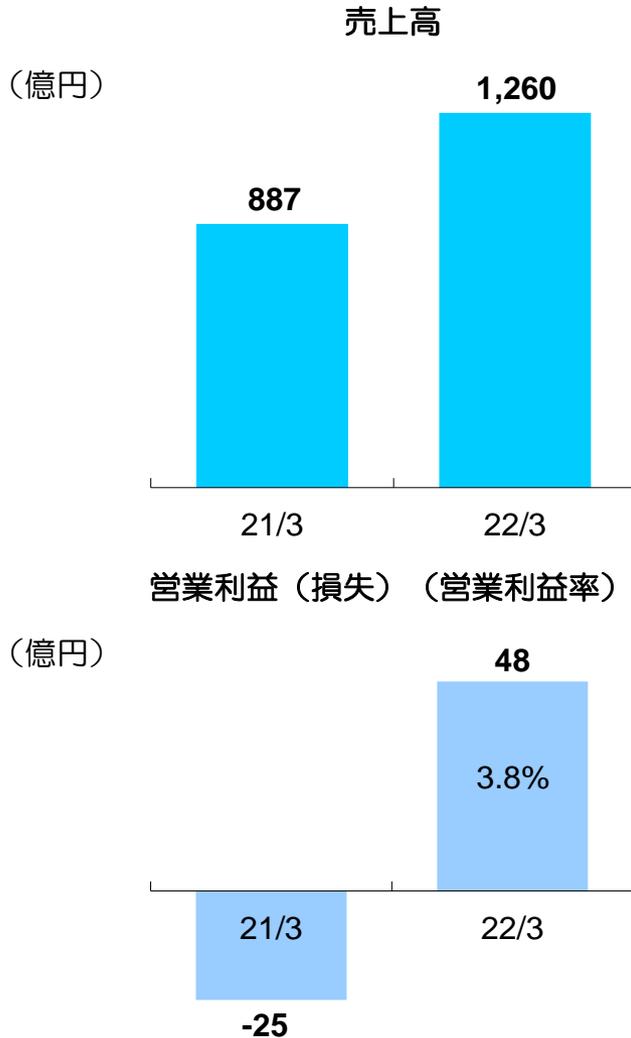


売上高 595億円（前年同期比72.5%増）  
営業損失 △7億円（前年同期比一%減）

## ● センサ

- 前年同期比で大幅増収、営業損失が大幅に減少。2Qに黒字転換。
- 温度・圧力センサは、自動車市場及び家電向けの売上が増加し、収益も改善。
- 磁気センサは、ホールセンサの販売が自動車市場向けに増加、TMRセンサの販売がICT市場向けの採用拡大により前期を大幅に上回る水準で推移、収益も大きく拡大。
- MEMSセンサは、モーションセンサ及びマイクロフォンが顧客基盤、アプリケーションの拡大によりICT市場向けを中心に販売が増加。収益も大きく改善。

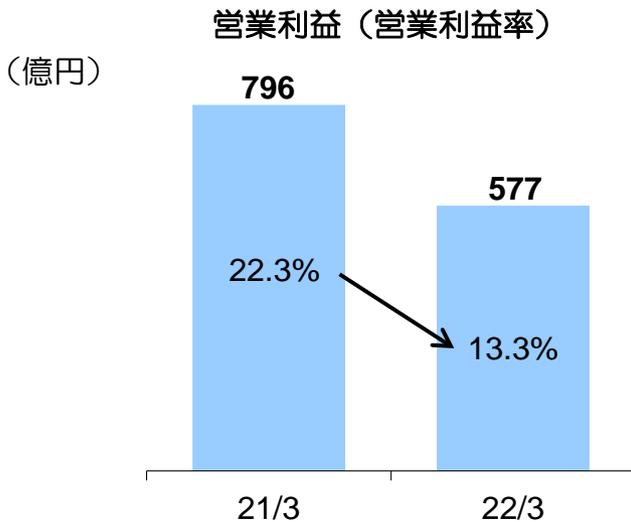
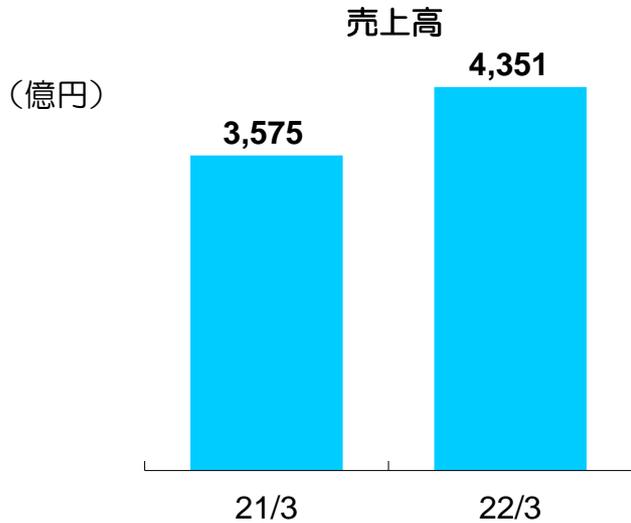
# 上半期各事業の状況（磁気応用製品事業）



売上高 1,260億円（前年同期比42.0%増）  
営業利益 48億円（前年同期比－%増）

- HDDヘッド・サスペンション
  - ↳ 前年同期比で増収増益。2Qに一時費用を計上。
  - ↳ データセンター向けサーバー需要の拡大により、ニアライン用HDDヘッドの販売が大幅に増加。収益も拡大。
- マグネット
  - ↳ 前年同期比で増収、営業損失が減少。
  - ↳ 自動車市場向け販売が増加。

# 上半期各事業の状況（エネルギー応用製品事業）



売上高 4,351億円（前年同期比21.7%増）  
営業利益 577億円（前年同期比27.5%減）

- エネルギーデバイス（二次電池）
  - 前年同期比で増収減益。パワーセル製品への先行投資や原材料価格高騰の影響により減益。
  - 1Qに原材料価格高騰の影響等で利益率低下も、2Qで吸収し、ロイヤリティを含みながらも利益率が改善。
  - モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向け製品及び小型機器向けミニセル製品の販売が堅調に推移。
  - 電動二輪車、家庭用蓄電システム向けのパワーセル製品の販売が拡大。
- 電源
  - 設備投資需要の拡大により、産業機器用電源は前年同期比で増収増益。

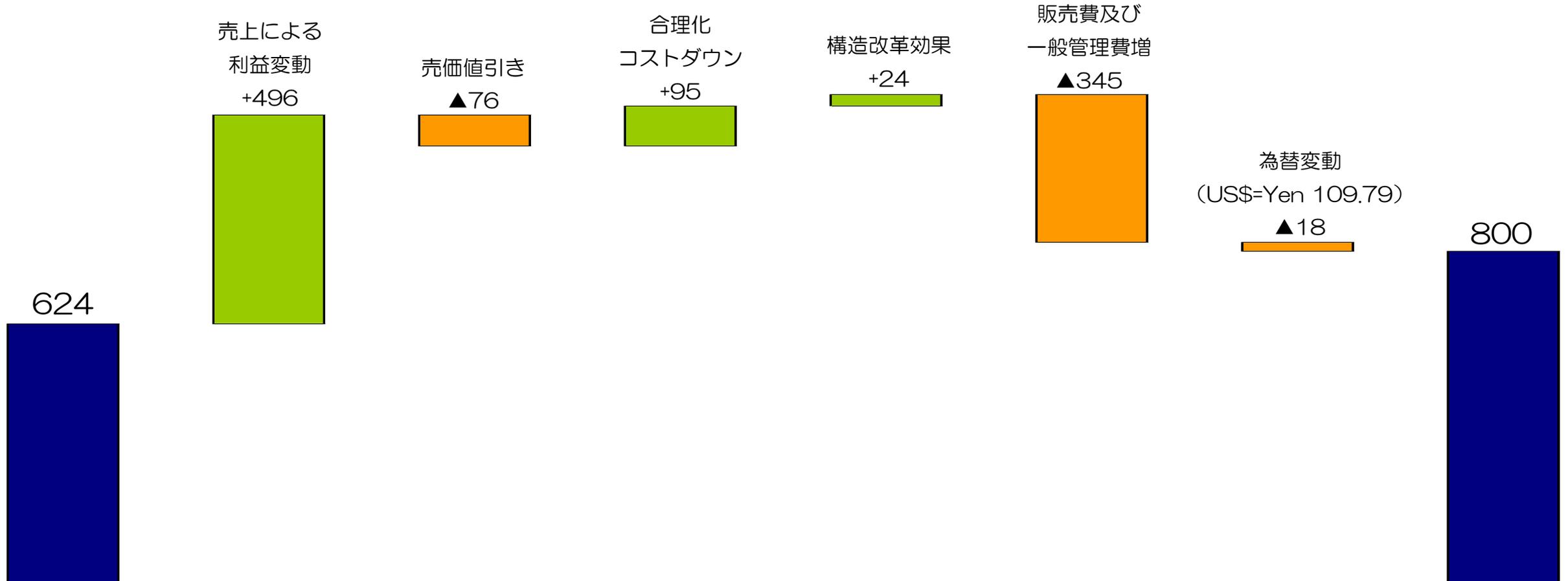
# 営業利益増減分析

2021年3月期  
上半期  
624億円

営業利益 +176億円

2022年3月期  
上半期  
800億円

(単位：億円)



# 2022年3月期 第2四半期連結業績概要

	(億円)	2021年3月期 第2四半期実績	2022年3月期 第2四半期実績	前年同期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		3,817	4,741	924	24.2
営業利益		440	492	52	11.9
営業利益率		11.5%	10.4%	-1.1 pt	-
税引前利益		425	522	98	23.0
当期純利益		290	416	125	43.2
1株当たり利益 (円)		76.61	109.66	-	-
為替	対ドルレート (円)	106.23	110.07	3.6%の円安	
	対ユーロレート (円)	124.06	129.83	4.7%の円安	
為替変動による 影響金額		売上高：約240億円の増収 営業利益：約1億円の減益			

# セグメント別四半期実績

(億円)		2021年3月期 第2四半期 (A)	2022年3月期 第1四半期 (B)	2022年3月期 第2四半期 (C)	前年同期比増減 (C) - (A)		直前四半期比増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	386	471	498	112	29.1	27	5.7
	インダクティブデバイス	346	420	452	106	30.6	32	7.6
	その他受動部品	262	320	323	61	23.2	3	0.9
	受動部品合計	994	1,212	1,273	279	28.1	62	5.1
	センサ応用製品合計	198	268	327	129	65.2	59	21.8
	磁気応用製品合計	504	606	654	149	29.6	47	7.8
	エネルギー応用製品合計	2,007	1,996	2,355	349	17.4	359	18.0
	その他	114	118	132	18	15.9	14	11.7
	合計	3,817	4,201	4,741	924	24.2	541	12.9
営業利益	受動部品	97	180	214	117	121.2	33	18.5
	センサ応用製品	△ 51	△ 20	13	64	-	34	-
	磁気応用製品	14	28	20	7	50.9	△ 7	△ 26.2
	エネルギー応用製品	483	234	343	△ 140	△ 29.0	109	46.8
	その他	△ 28	△ 29	△ 12	17	-	17	-
	小計	514	392	579	64	12.5	187	47.6
	全社および消去	△ 75	△ 84	△ 87	△ 12	-	△ 3	-
	合計	440	308	492	52	11.9	184	59.6
営業利益率		11.5%	7.3%	10.4%	-1.1pt	-	+3.1pt	-
為替	対ドルレート (円)	106.23	109.50	110.07				
	対ユーロレート (円)	124.06	131.90	129.83				

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。  
[https://www.tdk.com/ja/ir/ir\\_events/conference/2022/2q\\_1.html](https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2022/2q_1.html)